道徳学習指導案

日時　　　　　年　　月　　日（　　）第　　時限

場所

指導者

１　主題名　支え合い・助け合い、ともに生きる　　〈関連〉生命の尊重　父母、祖父母への敬愛

　　資料名　道徳・人権教育アニメーション　「くぅとしの　－あなたがそばにいるだけで－」

２　ねらいとする道徳的価値について

　人はみな、それぞれいろいろな個性を持って生きている。その一つ一つを大切にし、尊重しあうことは、人間社会に欠くことのできない大切なルールである。この生命を尊重するということは、すべての道徳教育の基盤となっている。

ここでは、子どもたちが支え合い・助け合い、ともに生きることをねらいとするが、それには生命を尊重することが根底にあると考え、「支え合い・助け合いの精神」を、「生命の尊重」と関連付け、生命の尊さや、生きることの喜びを感じ取り、互いに尊重し支え合いながら、ともに生きていこうとする心を育てていきたい。

また、少子高齢化に伴い、今後身近な問題となることが予想される、高齢者の介護や、認知症の症状などについて、理解を深めるきっかけを提示し、さらに「父母、祖父母への敬愛」とも関連付け、子どもたち自身のおじいちゃん・おばあちゃんに限らず、ご近所の高齢者など、それ以外の年配者に対する敬愛の心を育てていきたい。

３　資料について

　本アニメーション教材は、年も離れていて、性別も異なる介護猫・くぅと認知症の犬・しのの、種族を越えた愛の物語である。そして、この物語において大切なことは、以前までは穏やかで優しかったしのが、認知症の症状が現れ始めたことによって、これまでのように一緒に遊ぶこともできなくなり、幻視や妄想により、感情のコントロールができなくなったにもかかわらず、くぅはかわらずしののそばで支え続けたという点にある。この点に留意しながら、「もし、あなたの大切な人が認知症になってしまったら、あなたはその人に何をしてあげることができるでしょうか」といった問いを子どもたちに投げかけ、子どもたちが自分事として考えることを促す。

また本教材は、「くぅとしの 認知症の犬しのと介護猫くぅ」（晴／作　辰巳出版刊）というフォトブックを原作にアニメ化したものである。原作が人気作であることをうまく利用しながら、支え合い・助け合いの精神について考えさせ、物語のその先にある生命の尊さについて、生徒たち自身に考えさせたい。

　また、本教材の中では主題に限らず様々なテーマをちりばめてある。発展的内容として、それらに言及するという指導法も、児童の実態に応じて工夫することも考えられる。

　〈例〉捨て猫・犬問題　認知症の症状　高齢者・病人の介護　大切な人との死別